
きみがいた

煉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

きみがいた

【Nコード】

N1959A

【作者名】

煉

【あらすじ】

日常の中で出会った、病んだ少女の物語。

風

きみはいたよ。

亜里沙。

誰もがきみを憶えていなくても・・・きみは確かにここにいたんだ。

・・・亜里沙。

「僕」は今でも憶えているよ。

きみは、病んだ少女では無いんだ。

プロローグ
回想

当初、「僕」は「藤岡先生」と呼ばれていた。

小児科の担当だった。

毎日、泣き叫びながら注射を打つのを我慢している子供達の病気を治すのが

その頃の「僕」の務めだった。

・でも、「僕」は小児科より、外科に就きたいと願っていた。

その時の「僕」は・・・かなりの子供嫌いで、いつもキツイ態度で接していたらしく

中学生以下の子供には人気が不評だった。

（別に好かれても嬉しくは無いが）

特に理由も無く、子供が嫌いだった。

そんな中で、「僕」と亜里沙は出会った。

亜里沙は結核だった。

・・・それから

彼女は「僕」の受け持ちになった。

亜里沙は普通より少し変わっていた。

子供らしく、部屋で泣き叫ぶ事も、騒ぐことも無かった。

まだ・・・とても幼いのに。

いつも、何をしているか分からなかった。

只、ボーっと窓の外を眺めて・・・

「僕」は思い切って聞いてみた。

「何を見てるの？」

すると、彼女は答えた。

「風を見ているの」

○

これは、亜里沙が死ぬまでの・・・たった2ヶ月の記録だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1959a/>

きみがいた

2010年10月13日03時05分発行